

# 阿賀野川

aganogawa E-toko dayori

# えとこだより



ここにあるすべてを、  
かけがえのない  
「宝もん」へ。

「川魚の焼き干し」(阿賀野市京ヶ島) 提供:大橋憲造氏

## もくじ

特集1 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域 再生フォーラム(第14回)開催のお知らせ	2
トピックス 新潟水保病学習の出張授業	3
特集2 阿賀流域再発見・連続ツアー講座2025	4
〜阿賀野川流域のSDGsをさぐる〜	
水と大地が織りなす豊かさを享受する阿賀野川 下流域の持続可能な今後は? 開催レポート	
インフォメーション	8

## 阿賀野川流域における「未来志向のSDGs<sup>(※1)</sup>」を探る

エスディー・ジーズ

今後のFM事業<sup>(※2)</sup>を通じて、  
次世代に向けた取組を考えるために

新潟水保病は今年度で公式確認<sup>(※3)</sup>30年を迎えました。しかし、被害を訴えて平成後期に提起された訴訟の一部は現在も係争中で、新潟水保病問題は今なお続いています。当時、若者や子どもだった人々もすでに高齢世代となっており、今後は新潟水保病の歴史や教訓、経験を次世代へ伝えていくことがこれまで以上に難しくなることが懸念されます。

一方、FM事業ではこれまで座学やパネルツアー、パネル巡回展などを通して阿賀野川流域の歴史や文化に刻まれた「光と影」について理解を深めてきました。さらに、ここ数年は「水と大地の豊かさ」にも着目し、これからの阿賀野川流域における「未来志向のSDGs」とは何かについて探ってきました。

今後は、当時を知る人々が少なくなる中で、次世代に対して、新潟水保病の経験や教訓を、どのように伝えていくのが課題となっています。「阿賀野川えとこだより」では、次世代がこれらを学びながら、「未来志向のSDGs」をどのように探求していくことができるのかについて、さまざまな特集を通じて考えていきます。

※1「Sustainable Development Goals」(=持続可能な開発目標)の略称。

※2「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。

※3公式確認とは、公害による健康被害の発生を行政が確認すること。新潟水保病では、昭和40年5月31日に新潟県が新潟大学の報告を受けて確認した。